

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170201515		
法人名	メディカ・サポート株式会社		
事業所名	グループホームだんらん		
所在地	鳥取県米子市富士見町2丁目132番地		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル 111号		
訪問調査日	平成22年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだんらんは、家庭的な雰囲気の中で、入居の皆様が時にはぶつかり合い、時には助け合い支えあいそして、時にはスタッフを支えてくれる心暖かい皆さんで暮らしています。スタッフは、そっと寄り添い、その人らしさを大事にしたケアを提供するよう日々奮闘しております。一度、だんらんへお越し下さい心暖まりますよ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地に4年前から開設されたグループホームである。商業施設と隣接し、日常的に買い物や外出支援がおこなわれている。管理者、施設長、職員の連携が出来ており、職員の異動も少ない。『喜怒哀楽』の理念を掲げ、家庭的な雰囲気を大切に、それぞれの個性を尊重し利用者と共に悩み、泣き、笑い、日々実践に活かしている。地域との交流も4年の年月を経て活発になり、とけ込んできている。また、職員の異動も少なく、ターミナル指針が確立しており、2例の経験がある。利用者・家族共に安心して穏やかな毎日を送っている事が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践を確認しあい、日々のケアを行いカンファレンス等を開きスタッフ間で共有し実践につなげている。	『喜怒哀楽』のと言う理念のもと、認知症高齢者が安心と尊厳のある生活が送れるようにと、施設長の強い思いが、入職時のオリエンテーション・毎月のカンファレンス等で共有し、全職員に浸透し、実践につなげている事が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に出掛け、行事に参加したり隣接するデパートから映画に招待していただいたり交流が図れている。また、ご友人がだんらんし尋ねてこられる回数が増えてきた方もいらっしゃる。	開設4年、地域を巻き込んだの事業所作りの努力の結果、地域の方の理解を頂ける様になり、散歩や外出の折に、住民の方から声をかけてもらう事が多くなった。また、事業所が行う夏祭りへの住民参加も年々増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で介護相談は開設当初より続けている。また、地域の中学生の職場体験も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内でのご利用者様の日々の様子や、問題事例があるときなどは、地域の皆様、市の職員、地域包括職員に相談し、助言をいただいたりしサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的に行われていないが、行政担当者や地域住民代表、家族代表等の参加が毎回あり、報告で終わることなく、情報交換の場としても活用され、サービス向上に活かしている。	出席者を幅広く柔軟に考えられることで、新たなテーマの気づきを得られることもあると思います。定期的な開催を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の新人職員の研修を受け入れたり困難事例は相談したり、協力し合い取り組んでいる。	市の新人職員の研修を受け入れたり、日頃の相談等、協力体制・連携が出来ている。デイリケートな問題のある方の相談・入所にも対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、施錠しているが、日中は鍵をかけず自由に外へ出られるようにし、出られる利用者を引き止めることはなく見守りや声がけを他部署のスタッフとの連携により対応している。	日中の施錠はない。外に出ようとする利用者の方に対しては、寄り添ったケアが出来ている。管理者始め職員も身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行ったりスタッフは虐待に対する認識を常に持ち日々の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で勉強会を行ったり、実際に後見人制度を利用しておられる方がいらっしゃる方で活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設当初より、説明、理解、納得をもらえるよう努め、家族会を通して理解、協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の皆様とは、常に対話に努め、言いたいことが言い合える関係作りに努力し、ご家族についても、言いやすい雰囲気作りにつとめるとともに、1階に意見箱を設置したり、第三者評価委員の方々がおられることも伝えている。	事業所独自の家族アンケートもされており、家族や利用者の方の声には、耳を傾けている。苦情や要望等も言いやすい雰囲気を作る努力をされている。頂いた意見や要望等は事業所に掲示し外部へ表し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に必ずスタッフからの声を聴く機会を設けている。	カンファレンスが定期に開催され、必要時には随時ミーティングが開かれ、施設長含め職員間の風通しがよく、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフは、会社の宝であり、それぞれがやりがいを持って楽しく仕事ができるよう、個々に仕事を任せたり結果を評価したり、職場環境には、十分配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を見て、経験年数や、その研修が必要なスタッフにその都度でかけてもらっている。また、自分から行きたい研修を持ってこられるときは可能な限り行かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の相互研修を通じ参加したスタッフは良い機会のように、積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し利用者や家族の思いを聞きだしそれを全スタッフで共有し、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話にも耳を傾け、よく話しを聴き受け止め関係作りに力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い状況を確認し、当施設に併設された小規模多機能型居宅介護と連携を取りながら必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「してもらってあたりまえ」の入居の皆様思いを切り替え、個々の得意分野で力を発揮してもらい意識改革出来るよう支援している真っ最中である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来所を促し、行事参加や外出などを勧めている。また、遠方のご家族には、電話や手紙の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設するデイサービスにご友人が通ってこられ会いに行き交流が再会した。またご家族の方に畑をかりだんらん農園を開設した。	友人達の訪問、デイサービスに通所される人との交流等の支援がある。畑を借りた「だんらん農園」があり、土と触れ合うとても楽しそうな作業の写真がみられ、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同志で体力づくりの体操などしている。利用者の仲の良し悪しに配慮しスタッフが調整役となり支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から相談等あれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向に限りなく近づける用語本人との関わりを大切に同じ目線にたち、思い通りの生活が送れるよう努めている。	細かな観察、職員間の情報交換・意見交換で、一人一人を深く考察し思いの把握に努めておられる。部屋担当をつけ、家族との外出に付き添ったりしながら、家族との関係構築にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にご本人から話を聴いたり面会時には家族から情報を収集するよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課は作らず入居者一人一人の生活リズムに合わせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で変化があった時点でスタッフ全員で話し合い、本人・家族の意向を把握し、介護計画に反映させている。	計画作成担当者と部屋担当者と共にモニタリングを行い、担当者が築いた本人・家族との信頼関係からよりよいケアの展開を目指している。	本人・家族ともどのような暮らしを望んでいるのか具体的に聞き出させて書き込んでもらえると、更に質の高いケアプランになっていけるのではと期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った個別記録を記載し全スタッフで情報共有している。また、ケアプランの見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と利用者が一緒に外出する際、ご家族からトイレが不安等お困りのことがあれば、スタッフが一緒に外出したり、併設施設へ自由に行き来ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通して、地域の方々や地域包括センターの職員等と情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の嘱託医が月に2回の往診をしてください。また、嘱託医以外への受診の際は、ご家族にお願いしているが、その際は、連絡ノートを渡し、主治医との情報交換を図っている。	月に2回、協力医の往診がある。受診は原則として家族にしてもらうが、困難時は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務しており24時間対応で、嘱託医と相談し健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、スタッフが交代で面会に行き、看護師やケアマネは担当医と情報交換し、退院前カンファに参加したり、早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認書を作成しており、看取りをご希望される場合はスタッフ、嘱託医、ご家族と連携し、対応している。	重度化や終末期に向けた指針が具体的に文章化されており、研修も行っておられる。過去に2例のターミナル経験がある。家族への調査でも、最後までお願いしたいという意向がある事から、事業所が本人・家族、関係機関と共にチームできめ細やかな支援に取り組む体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	嘱託医主催や、看護師主催の勉強会を開き実践を交え訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害避難訓練を行ない、推進会議を通し、地域の皆様にも協力を働きかけている。	年に2回の避難訓練が実施している。運営推進会議での話し合いでも、地域との協力もお願いし、体制づくりが築かれている。備蓄は、水や食料品等が用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人が違うと言うことをスタッフ全員で認識し、個々にあった声かけをするよう努めている。また、プライバシーに関しては、勉強会をしたり、カンファレンス等で話し合っている。	プライバシーを損なう声かけは見られなかった。常に勉強会やカンファレンスで話し合い、研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを可能な限り受け止め対応するよう努めている。また、自己決定ができない利用者の方々は表情を読み取るようにして対応するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心の時間でその日を過ごすよう努めている。また最近では、月に何度か入居の皆様に夕食のメニューをきめてもらったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は、本人に服を選んでもらったり、化粧をしたい方には、スタッフが手伝っている。美容院には、行き着けのお店に行ってもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、ご本人リクエストメニューにしたり、好き嫌いがある場合は別のものを出すようにしている。食事の準備、後片付けは、利用者、スタッフが共に行う。	共に買い物や準備を個人の能力や思いに合わせて行われている。個々のスピードで食事を楽しんでいた。片付けも、出来る範囲で手伝っておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者一人一人の健康状態や、食べる量を理解している。水分量も1日ペットボトル1本分を目安に全スタッフが把握し飲んでもらうよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、また、義歯をしようしている方々は、週に一度洗浄剤を使用し洗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しオムツは最終手段と全スタッフが認識しており、寝たきりの方でも排泄はポータブルトイレを使用している。	日中は、排泄チェック表によって声かけを行い支援している。日頃の様子を観察し、ポータブルトイレの利用等工夫し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取やイーージーファイバーを利用し繊維質の多い食べ物を摂取していただいたりし対応している。下剤の使用は、最低限度で使うようにしている。また、個々に合った運動や体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入りたい方は毎日自由に入ったり、入浴時間は基本的には夕方に近づいてからだが、希望時間があるときはその時間に添えるように努めている。	日々、入浴については希望に沿う方針であるが、現状は隔日で午後に入浴される方が多い。個々にそった支援がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は、好きな場所でおられるが、寒い時期は気持ちよく眠れるよう湯たんぽの使用をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが利用者の服用しているお薬の副作用を把握し、服薬確認が必要な方には、声がけしたり、薬を手渡したりし、確実に服薬できるよう支援している。また、薬が変わった場合は看護師が連絡ノートを活用し全スタッフに周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事得意な方には、野菜を作っていたり、ドライブが好きな方には、ドライブを楽しんでもらったり、好きなことをしてもらえる時間を大切にしよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や近隣の公園へ出掛けたり、ご家族の協力でお墓参りに出掛けたりしている。また、一人で出掛けたがる方に関しては、隣接するデパートの職員さんに見守りをお願いしたり、併設する、小規模のスタッフに見守りを依頼して、可能な限り一人で外出できるよう支援している。	行きたい場所へ個別もしくは少人数での外出支援をしいる。車椅子対応の方でも日常的に散歩の支援もなされている。家族と一緒に計画的に外出したり、臨機応変にお茶を飲みに出かけられる様に支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物に出掛ける際は、可能な方はご自分でお支払いをいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、スタッフが使い方を教えてご家族と連絡を取っておられる。また、ご家族から電話がかかってきたときなどは本人に代わり声をきいていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所には、神棚を設置し、談話室には、コタツを置いたりして家庭らしい空間作りに努めている。	共用の空間には季節の花が生けられており、不快な要素もなく、家庭的な雰囲気である。居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	だんらん内に、自由に座れるようソファーや長椅子を置いている。時々奥のソファーに仲良し同士で座り話しこんでいることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのお部屋作りは、ご家族にも協力してもらい本人が居心地がよい空間になるよう努めている。	洋間の居室に畳の部分があり家族がゆっくり過ごせるように工夫・支援していた。また、家族が持ち込んだソファーがあったり、本人の好みのもの(ポスターや人形等)も持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ椅子に柵を作ったりベットの柵とベッドの間にはさまらないようカバーを手作りしたりして安全に過ごせるよう支援している。		